



既成概念にとられない カスタマイズが続く3階

1.国内外の古いものや新しいものをミックスした空間は、鈴木さん夫妻がディレクションする複合施設「CASICA」の世界観に通じる。1階の暖炉からつながる煙突を利用して、憧れの薪ストーブを設置。オープンやホットプレートなどの調理機能も充実した英国ESSE社の「The Ironheart」が鎮座。2.南側のベランダをサンルームに改装。サボテンや多肉植物に4歳の然くんが率先して水やりをしてくれるそう。「あと10倍くらい増やしたいですね」とご夫妻。3.ワンルールの一角に設けた仕切りにはガラス窓を付け、視線が抜けるようにした。「窓枠は、鉄加工ができる友人にわざと錆びさせて作ってもらいました」（善雄さん）。4.床に使用している古材で造作した収納には洗濯機も収まっている。



北欧テイストの1階は ゆったり落ち着いた雰囲気

1.左のガラス窓はルーバー状。室内にやわらかな光が差し込むだけでなく、コンクリートの建物が道行く人の目に優しく映るようにとの心遣い。2.吉祥寺でギャラリー「フェブ」とパン屋「ダンディゾン」を営む引田さん夫妻。仕事で多くのものを目にするだけに、自宅はすっきりシンプルに。どこに座っても緑が楽しめる。3.暖炉の奥がDKとワークスペース。娘の舞さんと一緒にキッチンに立つのも楽しい時間。4.もとは、ターセンさんが50年ぶりに再会した友人の物件。駅近という立地もさることながら、この暖炉に大きく心を動かされてリノベーションを決意。



To Be Ourselves

Two-family house

程よい距離感が心地いい 好きが詰まったそれぞれの空間。

築

20年強の鉄筋コンクリート造3階建てを完全分離型の二世帯住宅にリノベーションして暮らす鈴木善雄さん・舞さん家族と、舞さんのご両親、引田ターセンさん・かおりさん夫妻。それぞれ好きなテイストにこだわり、造り上げた2つの住まいは、全く異なる個性を放っている。

鈴木さん家族が暮らす3階は、店舗の設計やディレクションを手がける善雄さんが大工仲間と地道に造作した空間。3LDKの間取りを開放的なワンルームに変身させ、国や年代に縛られない家具を置いた。圧巻なのが、業務用冷蔵庫の高さに合わせた調理台を囲むように壁に付けたオリジナルの棚。古い和筆筒や小引き出しがパズルのようにはめ込まれ、足りない部分のパーツは舞さんの希望に耳を傾け、善雄さんが制作した。「作り付けではないので、入れ替えも可能です」と善雄さん。家族の成長や好みの変化に応じていつでも変更できるため、今後も制作が続く。ご両親からは、「ヨシオダファミリア」と呼ばれている。

一方、引田さん夫妻が住む1階は、暖炉のある山小屋風の住居をシンプルで落ち着いた北欧テイストにリノベーション。「気軽に立ち寄ってほしい」と門柱や門扉を取り払い、植栽で建物を囲ったオープンな造りにした。暖炉を残した広々としたLDKや複数人で立つ

ても余裕のキッチンスペースを確保し、家族や友人が大勢集まっても気持ちよく過ごせる空間を実現した。時折、4歳の然くんや1歳の燦ちゃんを預かるなど娘夫妻の子育てもサポート。お互いのライフスタイルを尊重しつつ、世代が異なるゆえに得られる刺激をそれぞれが楽しんでいる。